

## 諦めない者だけが掴む 一級建築士試験体験記



取得した資格：一級建築士  
資格取得年度：令和5年度

おおくま たくや  
大熊 卓哉\*

### 1. はじめに

公務員として入省する前、私は民間の建築設計事務所で勤務していました。業界では、上司や関係者が一級建築士資格を持っていることが一般的であり、資格取得は欠かせないと感じていました。さらに、私は異業種からの転職であったため、基礎知識を身に付けることも目的として、資格取得を強く志しました。

異業種から飛び込み、一級建築士の資格取得を目指したため、合格までには多くの苦労がありました。その試行錯誤の経験が、資格取得を目指す方々の一助となれば幸いです。

### 2. 資格取得に向けたモチベーションづくり

公務員技術者という立場では、一級建築士資格の必要性は必ずしも高くないと感じます。そのため、資格を目指す理由を明確に持つことが難しい場合もあります。しかし、資格取得に向けた第一歩は「目指す理由を持ち、強いモチベーションを維持すること」です。

学科試験は非常に広範囲の分野を学習する必要があり、休日はもちろん、日常の空き時間を積極的に勉強に充てる覚悟が求められます。

また、製図試験は課題発表から短期間で知識習得、エスキスや作図練習を繰り返す必要があり、忍耐力とひと夏を全力で走り抜ける体力が不可欠です。

「一級建築士になる」という強い意志と明確な理由こそが、合格への原動力になると考えます。

### 3. 学科試験対策～継続は力なり～

学科試験は覚えることが非常に多く、怠けるとせっかく覚えた知識を忘れてしまいます。そのため、過去問を繰り返し解き、継続的に学習することが重要です。私は業務と並行しながら、通勤時間、休憩時間、出勤前後や休日の隙間時間を総動員して勉強しました。継続して学習時間を確保し、繰り返すことで知識を定着させることを意識しました。

勉強方法としては、択一式問題の全ての選択肢について正誤を導けるよう、一問一答形式で解答しました。理解不足の選択肢には付箋を貼り、参考書で再確認した上で、再度問題を理解、解答できたら付箋を外すという流れで繰り返しました。当初は問題集が付箋で埋まり絶望しましたが、2周、3周と繰り返すうちに付箋が減り、進捗を視覚的に確認できたことで達成感が得られ、モチベーションの維持につながりました。試験直前には、最後まで付箋が残った苦手問題を重点的に学習し、ポイントをまとめた最終確認ノートを作成して試験に臨みました。

限られた時間を有効に使い、隙間時間を総動員するための強い意識と環境づくりが重要であると感じます。

### 4. 製図試験対策～スランプからの脱出～

一級建築士試験の本番は製図試験です。作図スピードが上がらない、エスキスがまとまらないなど、スランプに陥ることもありますが、最後まで諦めない気持ちが大切です。

\*国土交通省 関東地方整備局 営繕部 営繕技術管理課

私は製図試験に何度も失敗しました。1年目は順調だと思っていましたが、不合格でした。理由がわからず落ち込みましたが、今では重要なポイントを理解できていなかったことが原因であったと考えています。翌年もスランプから抜け出せず、不合格となりました。試験中にエスキスがまとまらず、不安に駆られながら図面を描いた苦い経験です。

その後、直感的に行っていたエスキス方法を体系的な手法に切り替え、製図板での作図をフリーハンドに変更するなど、全面的に方法を見直しました。諦めずに原因を検討し続けた結果、試験本番前にはスランプを乗り越えることができました。

エスキス手順では「問題文の読み取り」を最も重視しました。課題文はヒントであり、読み違いや読み落としは重大な不適合につながるため、急ぎながらも丁寧に読み、要求条件や法規チェックを問題用紙やエスキス用紙に整理しました。プランが上手く作成できないときは、問題文の理解を疑うことが重要です。また、「計画の要点等」の記述問題については、学科知識を活用し、ポイントを押さえた例文をリスト化しました。また、スマートフォンの読み上げ機能を使い、通勤時間や就寝前に暗唱できるまで繰り返しました。

試験勉強とは直接関係ありませんが、道具へのこだわりはモチベーション維持に役立ちます。私は気に入った筆記具を作図用と記述用で使い分けていました。

## 5. これからも学びを大切に

一級建築士資格を取得したとき、ようやく一歩前進したという気持ちになりました。異業種からの転職経験があるため、経験値や知識不足を痛感することもあります。努力して資格を取得できたことは、自分の成長と自信につながりました。建築士としての責任感も強く感じています。今後も知識の研鑽に努めていきたいと思っています。

## 6. おわりに

ここまで、私の資格取得に関する試行錯誤の経験を記しました。一級建築士試験は非常に難しく、「いつか取れたらいい」という気持ちでは合格できません。少なくとも1年近く、プライベートの時間のほとんどを試験に費やす覚悟と強い意思が必要です。

これから受験される皆さまが、一級建築士となった自分をイメージし、諦めずに強い意志を持って勉強に臨めば、必ず道は開けます。

最後に、私自身も製図試験の不合格を何度も経験し、精神的に辛い時期を経験しました。「合格は無理かもしれない」と悩んだこともあります。しかし、職場の仲間、上司や資格学校の方々、そして家族に励まされ、支えられたことで取得できたと思います。

本稿がこれから受験に臨む方々の参考になれば幸いです。また、この場を借りて、支えてくださった皆さまに改めて感謝申し上げます。

【著者紹介】大熊 卓哉（おおくま たくや）

民間企業（建設コンサルタント、建築設計事務所）にて建築設計担当を経て、令和6年に国土交通省関東地方整備局入省。営繕部営繕技術管理課にて建築積算業務に従事。

## 退職される皆さまへ ～継続加入のお願い～

若手技術者の技術力不足が課題となっています。豊富な知識と経験を持つ熟練技術者から、現役・若手技術者へ技術を継承していくため、退職された後も会員として積極的な活動をお願いしています。引き続き全建で活動していただく方法は、以下の3つがあります。

- ①地方協会へ継続加入する（地方協会の規約によりご加入いただけない場合もあります）
- ②特別会員支会へ加入する（現在、特別会員支会は11支会結成されています）
- ③本部の特別会員として加入する（①②が不可の場合）

※①②は地方協会事務局へお問合せください。

※③は本部へお問合せください。

【問い合わせ先】（一社）全日本建設技術協会 会員課 E-mail:kaiin@zenken.com TEL:03-3585-4546